

経験された内容の報告書の開 く票の報告者の基調を 報告する者



花田 龍汰郎

背景

- 社会的問題
 - 技術的負債による保守コストの増加
 - 人員や,時間が余分に費やされてしまう.
- 関連する研究での問題
 - 研究者と実務者の技術的負債の認識の違い.
 - 実務者の技術的負債とは？

背景

- 実務者の認識する技術的負債はどんなものなのか？
- 実務者の開発経験により,技術的負債を報告しやすい
 - 開発経験のレベルに応じて問題となる技術的負債が異なるのか？

アプローチ

- 報告者の開発経験によるIssueの内容の違いを調査
 - 過去におこなったIssue,プルリクエストの数を用いて,開発経験の分布を作成
 - 上位と下位の実務者が報告するSATD-Issueの違いを分析
 - 上位の実務者が報告するIssueの違いを分析

進捗

- `vscode`
 - `owner : microsoft`
 - `repository : vscode`
- `influxdb`
 - `owner : influxdata`
 - `repository : influxdb`
- `saleor`
 - `owner : saleor`
 - `repository : saleor`
- `server`
 - `owner : nextcloud`
 - `repository : server`
- それぞれのデータを収集

これから

- 開発経験の定義
 - 何を軸として報告者の経験とするのか
 - Issue報告とpullreqの回数での相関が取れば,ある程度の経験と言えるのでは？
- 調査項目の設定
 - 報告者の開発経験で何が異なるのか仮説を立てる
 - 開発経験を定義,二年間ずつ開発期間を分け,報告の内容がどのように異なるのかを見るのもアリでは？

これから

- 方法
 - 調査項目を達成するための方法を定める
 - 未定
- 調査の実施
 - 未
- 結果の解釈
 - 得られた結果は何を示唆しているのか考える
 - 未